

骨組みを残して短くする

読み方ガイド 1 | 中3の読解・記述を確かめる

要約は、指定された目的や範囲に合わせて、本文の大切な内容と関係を短くまとめることです。感想を書く課題とは違うので、自分の好みや本文にない結論を混ぜません。

取り組む順序

- ① 指示を読む：全体か一部分か、何を伝えるか、何字か。
- ② 段落の役割を分ける：目的・問題・方法・理由・条件・結論。
- ③ 必要な内容を選ぶ：同じ働きの例は上位の言葉へまとめる。
- ④ 関係をつなぐ：なぜ、しかし、そこで、ただしを内容で表す。
- ⑤ 本文へ戻る：範囲・意味・字数・客観性を確認する。

短い例

学級の掲示係は、連絡を増やすほど伝わりと考えていた。しかし、同じ内容を別の紙に繰り返すと、変更された点が見つけにくかった。そこで、共通する情報は一枚にまとめ、新しい変更だけを目立たせた。ただし、古い紙を外す時刻も決めなければ、変更前の内容が残ってしまう。

残す骨組み

問題：繰り返しの情報で変更点が見えにくい。

方法：共通情報をまとめ、変更を目立たせる。

条件：古い紙を外す時刻も決める。

言い換えて縮める部分：「同じ内容を別の紙に繰り返す」を「掲示の重複」とまとめる。

要旨との関係

要旨は文章の中心的な内容や考えです。要約では、中心に加えて、指定された目的を満たす理由・方法・条件も適切な量で残します。最後の一文をそのまま抜けば完成するとは限りません。

字数に合わせて組み直す

読み方ガイド 2 | 中3の読解・記述を確かめる

字数が少ないときは細部をまとめ、多いときは必要な理由や条件を補います。短くするために主張の条件を消すと、別の意味になってしまうことがあります。

具体例をまとめる

「返す時刻を書く」「付属品を写真で確認する」は、「利用の予定と状態を共有する」とまとめられます。言葉を短くするだけでなく、複数の工夫が何のためにあるかを捉えます。

短い要約の例

前ページの例をまとめると、「掲示の重複で変更点が見えにくいため、共通情報をまとめて変更を目立たせ、古い紙を外す時刻も決める。」となります。問題・方法・条件をつないでいます。

残すべき言葉

「必ず」と「場合がある」は同じではありません。
「全て」と「一部」を置き換えないようにします。
「一方」「ただし」が結ぶ対比や条件を消さないようにします。
「提案した」「確認できた」「今後調べる」を区別します。

複数の資料をまとめる

資料ごとの役割をつかみます。例えば「提案→試行の結果→確かめられていない点→次の課題」と整理すれば、共通内容を重ねずに関係が分かる要約になります。

要約を点検して直す

読み方ガイド 3 | 中3の読解・記述を確かめる

要約の採点では、解答例と同じ言葉かどうかより、必要な内容とその関係が保たれているかを確かめます。この単元はA～Cが練習、Dが8問100点の実力確認テストです。

避けたい要約

具体例を並べただけで、何を説明する文章か分からない。
自分の感想や評価を、筆者の考えとして足している。
反対意見や条件を削り、本文より強い断定にしている。
一部分の話を全体へ広げている。
提案段階のことを、成功した事実として書いている。

減らすときの優先順位

同じ内容の繰り返しを省く。
複数の具体例を働きでまとめる。
「ということである」など冗長な表現を短くする。
中心となる理由・対比・条件は残す。

見直しチェック

- ☐ 指定された範囲に答えている。
- ☐ 目的・問題・方法・結論の必要な点を残した。
- ☐ 条件や不確かさを本文どおりに扱った。
- ☐ 自分の意見を入れていない。
- ☐ 主語と文のつながりが自然で、字数内に収まった。

文字の数え方

句読点やかぎカッコ、小さい「っ」「ゃ」も一字です。解答欄の一ますに一字ずつ書きます。短い問いでは部分をまとめ、最後の問いでは全体や二資料を80～100字にまとめる練習をします。